

令和5年度 第4回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和6年1月31日(水) 14:00~15:30
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室(対面+Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、足羽英樹委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、田中仁成委員、山口武視委員、片木威委員、小林朋道委員、遠藤由美子委員、矢野委員、吉田高文委員、今井正和委員
[12名/12名]
- 欠席者 なし

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 協議事項

(1) 令和6年度重点取組事項(案)について

事務局から令和6年度重点取組事項(案)について説明があり、意見をいただいた。これらの意見を踏まえて、令和6年度重点取組事項(案)を修正することとなった。

〈主な意見等〉

- ・ 学生への教育ということも大切であるが地域との連携、産学官連携にも鳥取の大学として力を入れて欲しい。最近の地域ニーズというのは、イノベーション研究センターの研究方針にもあるが、買い物環境の充実とか、過疎地の交通問題とか、広いところでは人口減少に直面している中で東京への一極集中がなお進んでいるという状況もあるなかで、鳥取県の人口も間もなく50万人を切るような状況である。そういった骨太の課題といったところにも果敢にチャレンジしていただきたい。これは6年度に限った話ではないので、中期計画の中でどういう風な位置付けをして行くのか。本年度の取組の中での実績報告を見る限りでも踏み込み不足ではないのかなと思わないでもない。要望として6年度を進めていくうえで、そういった骨太の課題にも果敢にチャレンジする準備を進めていただきたい。
→個々に取組んでいる教員はいるが、環境大学が全体として何をしているのかが見えないんじゃないかというのはご指摘の通り。
地域貢献に限らず、大学の魅力とも関連がある。個別の先生で成果を出されているが、外から見た時に「個別でやっているんでしょ」と、これは大学としてのインパクトとして物足りない感じがする。大学として、組織として取り組んでいるという見せ方が大学としてのアピールになる。
- ・ 大学の魅力づくり、発信というのは大学の大きな柱になってもいいのではないと思う。その意味では、地域連携の促進であったり、産学官の連携、全てが環境大学の魅力につながる。ひいては、学びの場の提供であったり、安定的な志願者の確保ということが、そうした魅力に高校生たちをいかに引き付けるかということになる。大学の魅力をさらに地域貢献という視点で高校生たちに頭出しするというのも考えとしてあるのかと思う。
- ・ 学生支援について、環境大学であれば、外に見えやすいものとして例えば就職支援だとか地域社会への貢献だとかがある。見えにくいものとして学習のプロセスの中で問題が生じた学生へのサポートというのは、教職員にとって日常重要な部分です。学生支援センターを中心としてというのは、最もなことだと思うが、この文脈では、個々の教員の方の負担感が大きくなら

ないようにということも触れていただくように。センターとの切り分けや連携の仕方について関係部署との連絡の仕方について、学内で決めていけば周知するとか。問題のある学生のサポートも重要なことである。海外大学との学生交流・学術交流について、海外大学という従来は、日本の大学は、欧米の大学との交流が多かったが東南アジア、東アジア南アジアも含めてそういったところは、日本に対してより関心を持ちやすい場合がある。あと文言に関して「〇〇に取り組む」という表現があるが読み方によっては、「新しく取り組む」と受け取られる心配もある。従来からの取り組みを一層促進する場合は、それとわかるような表現を文書として使った方がよい。「〇〇に一層取り組む」とか「さらに推進する」といった形にしてはどうか。

→言葉遣いについて少し見直してみたい。学生支援センターについては、小規模であるため学生に声を掛けたりとかちょっとしたことで繋がりが持てるとか、そういう良さは、失いたくない。現在、細かい取り組みとかも行いよく回っていると思っている。チューターと学生は結びついておいてほしいと思う。学生の状況を把握しておいて、休みが増えるとか成績不振とかの場合は、直ぐ学生支援センターに連絡してくださいと、そうすればセンターが対応しますとしている。アジアの大学との交流も今後進めていきたい。

2 審議事項

(1) 令和6年度当初予算の編成について(案)

事務局から令和6年度当初予算の編成について説明があり、意見をいただいた。

〈主な意見等〉

- ・ 大学の魅力づくりと戦略的な情報発信に予算配分を計画しているが具体的な中身が決まっていれば教えて欲しい。
- ・ 広報戦略が大学の魅力づくり、魅力発信に重要である。受験生に響くような情報発信をしていただきたい。

→今年度、大学内で広報戦略を策定し、その中で魅力づくりを含めて広報PRを行っていかうとしている。具体的には、広報のPR経費、入学確保のための広報分析を行ったり、大学法人そのものの広報経費を含めての経費。どうやってまとめていくか現在整理中。

(2) 学術交流協定等を締結している外国の大学への留学に関する規程の一部改正について

事務局から学術交流協定等を締結している外国の大学への留学に関する規程の一部改正について説明があり、提案のとおり承認された。

3 報告事項

(1) 公立鳥取環境大学第3期中期計画(案)について

事務局から、公立鳥取環境大学第3期中期計画(案)について報告があった。

(2) 近況報告

事務局から近況報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 環境学部で学ぶ意味、意義について銀行、県内企業からも教育委員会に届いているが、なかなかそうした声が高校生に伝わり切れていないという部分、この辺りをしっかり反省し、改善していきたいと思っている。せっかく大学で準備していただいた学校推薦型選抜の県内出身者限定のⅢ型が募集人員にも足りないというのが非常に残念な結果である。今、県全体をあげて若者Uターンふるさと定着プロジェクトを新たに立ち上げて教育委員会と知事部局と一緒に

なって帰ってくる、あるいは故郷に根づく、そうした施策をより進めていくんだという動きが、今年度から改めて起こってきたところであり、県内の高校生たちが県内の大学、高等教育機関にもっと目が向く、理解が進むということを改めて思っている。グローバル的な視点で日本、世界で活躍する人材が羽ばたいてくれればいい。一方でこの鳥取を目指す学生が増えることを願って今後も協力をして行きたい。

5 その他

6 閉会